

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.66 2014年1月12日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

支えとなる心の糧を守り育てるために

文化の仲間 代表世話人 二村 柊子

2014年がやってきました。

原発・憲法・沖縄……を想うと、“おめでとうございます”と
言っているのかしらと思っています。

昨年夏のこと。オリンピックにはあまり関心のなかった私、少
年数人が東京でのオリンピック開催への期待を熱く語り合っている
のを目にしました。そして、9月、それは決まりました。

12月、特定秘密保護法が成立したとき、1936年第11回ベル
リンオリンピック決定後、着々と戦争への歩みを進めていった
ヒトラーのことを思いました。少年たちに、2020年、平和な
祭典を贈ってあげなくては。

予想される、より厳しい時代、支えとなる心の糧を守り育てる
ために、文化の砦“文化の仲間”は歩みを止めることはできませ
ん。——継続は力なり

明けましておめでとうございます。



書：小野寺 晃

第36回かわさき演劇まつり

地蔵通り、メルヘン商店街

「市民により良い芝居を届け、市内のアマチュア劇
団育成」を目的として1972年に始まった「かわさき
演劇まつり」ですが、今回（2013年）は、3つの劇
団と公募の市民参加によって行われました。

参加した劇団は「京浜協同劇団」、「超電磁劇団ラニョ
ミリ INTERNATIONAL」、「世の中と演劇するオフィ
スプロジェクトM」。

これまでは、主に子ども向けの芝居を中心に行って
きましたが、今回は若者・大人向けの「地蔵通り、メ
ルヘン商店街」（丸尾聡 作・演出）。ベテランの支え
のもと、歌あり、踊りありの若者のエネルギーあふれる
舞台。どんな舞台だったか、3人の方に感想を寄せ
ていただきました。

改めて、肝に銘じて、これから

長谷川 怜

自らの技量不足、見識不足、星の数ほど色々なものが不足していることが、痛いぐらいに思い知らされた約3ヵ月間。私のなかなか改まらぬ奇癖と不足によって、何度稽古の中で大火傷をしたのだろう。

3つの劇団とそこにフリーや市民の方を交えて繰り上げられる舞台。ゆえに様々な年齢、色々な立場、色々な考え方や感性を持った方々が集まる訳ですが、ただ一つ言えるのは、私が年齢も経験も一番下だということ。

初めの顔合わせにて歌や踊りがあると聞いたとき、僕は降りようかと思っていた。足を引っぱる姿が容易に予想できたからだ。そもそもろくに発声の訓練も受けていないのに、このような舞台に出演するのは、とても恐縮であると感じていた。

稽古が始まる。予想以上に私は酷かった。頭と体の固さが壁となる。非常に飲み込みが遅いなりにとにかく可能にできそうなことからやっていくしかない。できることを一つ一つ積み重ねて形にしていくことを意識して稽古に臨んだ。それでも私の不器用さが災いして、うまくいかないことが多かった。

稽古始めの頃の僕は、もはや何処からダメを出せばいいのかといえるほどダメの出し所に溢れていた。公演直前までなかなか直らない所もあった。搔痒するほど私自身が嫌になってくる。

私がこの舞台で演じさせていただいた西田浩明とい



(写真撮影：駒ヶ嶺正人、以下同)

う人物。彼の表面的な性格こそ、私の性格と150度ぐらい違うが、内に持っているものは私に極めて近いものがある。台本の西田の台詞は私にとって冷たく、なおかつ痛い。己の精神にくるものがあつた。私にあまりにも近すぎる役であるがゆえ、とても演じるのが難しかった。無意識のうちに何かに抵抗していたのかもしれない。役を作る上で西田の背景を考えると、最終的にはかなり私に近い存在になってしまう。台詞をしゃべればいくつかは私のことでもあるので、自然と観客に向けにくくなってくる。そして丁寧に言えなくなる。



経験と技量の不足、役との共通点からくる無意識な拒絶反応、等々、いくつもの煩いを持ちながら、稽古を重ねてゆく。通常の稽古時間に加えて稽古開始前および終了後、さらに稽古日以外の日にも台詞や振り付けの確認や練習等を、自主ではなくほぼ強制でやることがあったため、日程と時間を空けることも気を使う。とにかく形にせねばいけないと言い聞かせ続けた。

何より、公演まで辿り着けたことが幸いだ。扱いにくい私を更迭せず、最後まで稽古に参加させていただけたことにはたいへん感謝しています。この公演を通



して改めるべき反省点、新たな課題を得て、肝に銘じねばならないことは私が気付いていないものも含めていくつもあります。これからの演劇活動に活かさないといけませんね。ありがとうございました。

(京浜協同劇団・団員)



「この日 この地で この人々と」

出会いの数だけ、人は大きくなる

小山 貴司

「この日 この地で この人々と」

一番初めにこの文字が飛び込んでくる稽古場。スペース京浜。8月下旬からスタートした稽古。南武線鹿島田駅から徒歩15分程にあるこの稽古場は、京浜協同劇団の持ち小屋だ。稽古場、と書いたが、ただの稽古場ではないのです。ここで公演もできるのです。しかも、建物の3Fには、なんと人が住んでいるのです！ 驚愕！

稽古は週に3回。19時～22時。1日3時間しかないという限られたもの。しかも3つの劇団+αが集まって、この条件で、舞台を作っていきます。年齢幅は20代～80代！ ハンパないふり幅！ しかし、それもそのはず。今回のお話は、寂れた商店街を復興



させようと、人々が奮闘するもの。商店街をやるのに若い人達だけでは説得力など持たせられることもなく。というか、京浜の方達の説得力たらないですね。もう立っているだけで存在してます！！ 羨ましい。僕はというと、完全なエンターテインメント作品をやるのは初めてで、はじめは若干照れなどあったが、そんなことは関係ねえ。いかにお客様を楽しませられるか。それが勝負です。なのですが、今回のキャスト。みんなキャラが強いんだな、これが。京浜さんはいわずもがな、ラニョミリの面々もすごい強い！ 主宰のミズノタクジさんは、通ししている裏側で、「ああ、普通の役者いないかなあ」なんてよくつぶやいてました。(笑) そんな中にこんなね、普通の人々が太刀打ちしようと思っても、それは勝てないわけで。そんなことは初めからわかっているわけで。何が言いたいかというと、人っていろいろな人がいるな～、と。色々な声。色々な身体。色々な考え方。みんな違う。でも、そんな違う人たちが集まって一つの物を目指す。それが演劇の本質なのかな～。というか、それが絶対一番面白い事なんすよ！！ なんてことを思いました。今回、





このメンバーでももちろん大変なことがたくさん、たくさんありました。でも、困難なことがあればあるほど、強まるものも確かにある。それは、僕が5年間やってきて、間違いないと自信を持って言えること。

「この日 この地で この人々と」。出会いの数だけ、人は大きくなる。(プロジェクト M・団員)

地蔵通り、メルヘン商店街を観劇して

新宅 哲也

私は3つの劇団が合同で造り上げた作品に接し、それぞれの個性が、よくここまで心ひとつになれたかと、感心した。皆の気持ちが客の心を打つ良い作品を造り上げようと、結集した思いがよくわかる。演出家の力量と、感性と情熱には感心する。

私ども団塊の世代にとっては、今の若者の感性は理解できない。西洋の音楽もダンスもいとも簡単に



あんなに上手く、そして歌いながら、全員が一糸乱れず踊っている。あたかもAKB48と見まごうばかりだ。さしずめJMS(地蔵通りメルヘン商店街)48といったところか!

誰の言葉か定かではないが、これからの芸人は、唄も踊りもその道のプロをしのぐほどでないと真の芸人とは言えない、ということを知ったことがあるが、まさしく役者も同じことが言えるのかな、と思った。

そこで私は思うに、なぜ日本本来の邦楽がもっと普及しないのだろう、日本人ならもっと着物を着ろ、民謡を唄え、日本舞踊を踊れ、と声高々に言いたい。しかし、所詮時代の大きな変化に抵抗できるものではない。いやこれは、この劇とは関係のない私の愚痴でした。



1つだけ受け入れがたかったのは、劇中歌の歌詞で、若者の話し言葉をそのまま歌っているところです。メロディーも意図するところも同感できるのに、あの若者言葉だけが、耳障りに感じられた。

この芝居は地元商店街活性化をテーマにされているが、JMS48のような、素晴らしいアイドルのショーが作れる商店街はわずかで、現実はずっともっと大きな問題と対決しなければいけない、厳しいものだろうと想像する。中小企業の生きていく道はいつも厳しい。大型店舗が地方にオープンするたびに、これに類似した悲劇が繰り返されているのだろう。地方が便利になると同時に、閉店を余儀なくされる店舗のことを思うと、複雑な思いだ。

この芝居の中で最も目を引いた役者という、私は

若菜とき子さんをあげたい。せりふの言い回し、しぐさ、顔の表情と、その舞台にいた者全員が引き締まるような、重い意味深い演技だった。私よりかなり年配と思われるが、いぶし銀の演技とはこのような演技を言うのか、と思った。

また、車椅子で出演の鬼丸ゆりさん、障害を乗り越えて元気に生きてこられ、厳しい稽古に耐え、今回の芝居に出演されて、見事に演じ切った。頭の下がる思いでした。

(横浜市在住)



たつの素子さんのこと

鈴木 たか子

たつの素子さんと初めて一緒に会をもったのは '83 年秋のこと。それからまもなくに私が素子さんのことを書いた文章を見つけた。まだ 30 代だった二人。出産・子育てから解放されず、なんとかやりくりしながらコンサートが続けた。それから 15 年くらい一緒したが、彼女はいつもこのとおりで、懐かしさいっぱいと思う。《私が、たつさんと組んで小さなコンサートを初めてひらいたのは、一昨年の秋のことでした。その時も彼女は、楽天的で、一見のんきそうでしたが、彼女の中に育ちつつあったなにかで、私を圧倒しました。そのなにかとは、上に伸びる幹や枝より下へ延び広がる根を私に思い起こさせ、その根のごときものは、今日の前に展開していることより、将来育むであろうものを予感させてくれ、なんだか、先のことを考えなくなるようには気持ちにさせてくれるものでした。そして、たつさんはといえば、展開するかもしれないことに対して、全くオープンに立っている——ように、私には思えました。そして今、彼女は、私の前にまっ白なページをパッと開いてくれたのです。よく見ると、それは、あの根のごときものでしっかり支えられています。そして彼女は、そのまっ白なページの上に、やりのんきそうに、やや重そうに立っています。私はとても安心した気持ちで、そのまっ白な場所に、今、入っていこうとしています。》(「ぷてろんニュース」No.3 '85 より引用)

私はどれだけのまっ白なページに、素子さんと踏み入ったことだろうか。見知らぬ土地での新しい人々との出会い、新曲の発表、新しい表現形態の試み、初めての CD 制作。どれもワクワク楽しかった。それにしても、彼女が足元に張っていた根が育て生みだした歌詞は、スケールが大きく、しばしば鋭くピタッと、私に向かってきて驚かされた。『いのち』('90) の一節、「生きていてよかったと思える今日をつくるのはあなた」しか、『もしも』('91) の一節、「あなたの敵は誰ですか」。生まれるべくして生まれた歌の鮮やかな切り口。素子さんが亡くなったなんて信じられない。オリジナルの歌から彼女の生きたその時その時の鼓動が聴こえ続けているのだもの。

('13.12.23. 文化の仲間会員、ピアニスト)



1991年8月 群馬大泉一かからさんしん映画の夕にて(写真提供:鈴木さん)

音楽もまた「この日、この地で、この人々と」であってこそ

安達 元彦

できるかできないかわからない。できないかもしれない。もしできなかつたらどうしよう？ でもやってみよう。やっちゃえ！——そういう、ヤバイことのおもしろさも、京浜協同劇団とのかかわりのなかでおぼえたような気がしています。そんな一例。

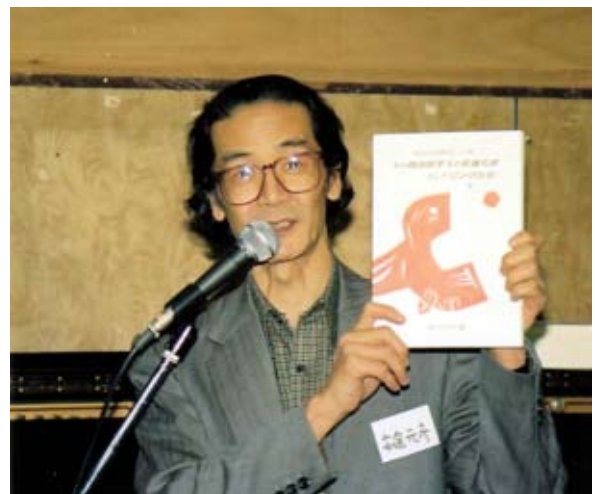
ふるさと川崎さつき祭りというのがありました。ありました、ではなくて今もつづいていると思います。毎年5月5日こどもの日、古市場河川敷で、大小の舞台での各種催し、多種多様な売店、遊び・ゲーム・スポーツ・占い、などなど。朝から夕方まで幅広い市民で賑わいます。1970年代から80年代にかけて劇団は総力をあげて取り組んでいました。企画全体のプランニングからステージの柱一本一本を建てるこまごまとした作業まで、なにからなにまで、劇団の力がなかつたらできなかつたと思います。

その中で、劇団関係者と語り音楽小屋というのを作っていろんなことをやっていました。1978年、さつき祭りの歌を作ろうよとなりました。それも、午前中にお客さんから言葉をもらい、それを材料に昼休み中（1時間！）に歌にして、午後みんなでおぼえてうたう——題して「おことばちょうだい即席ソング」。誰が言い出したんだか？（ひょっとして私？）。昼休みの劇団は戦場でした。飲物片手にパンをかじりながら（食うことは忘れないんだね）、カードにした言葉の断片を床いっぱいばらけ、つないだり離したりしながら、まずはよってたかっけの詩作り。曲付けの時間が15～20分あったかな？ 楽譜を印刷したり歌詞看板を書く時間も要るんですよ。そんなやつつけの極みみたいな作り方でしたが、けっこう評判良くてその後何年もうたいつがれていきました。こういう作り方ならではのパワーみたいなものがたしかにあるようにも思えます。

ついでに言うと、この時期劇団の子どもたちには受難のときだったと聞きました。何日も前から準備に追われますから、せつかくのゴールデンウィークが、いちばんほったらかしにされる日々。連休明けの学校では家族との楽しかった話に花が咲くのに劇団の子どもたちはポツーン。恨みのGW？

いろんな労働争議の集会もやりました。そんな中、いつだったかちょっと思い出せませんが、すさまじいオーケストラ(?)をやりました。楽器のできる人は演奏で支援を！——と集まってきた人たち。フルート、尺八、篠笛、バイオリン、三線、サクソフォン、クラリネット、エレキギター、ガットギター、エレキベース、ウッドベース、生ピアノ、キーボード、ドラムセット、和太鼓、各種鳴り物、などなど。ひとりひとりの顔を見、音を聴きながらのアレンジ・稽古は楽しかったなあ。この時、この場、この人たちならではの編成。そこでしか生まれえない音楽が立ちあがっていく様子に、ハラハラドキドキワクワク。

人のつながりと動きの中からの音楽——音楽もまた「この日、この地で、この人々と」であってこそ、生まれ生き育つことができることを、ぼくは京浜協同劇団から教わっていたのかなあ、と思います。



1994年（写真：©長坂クニヒロ）

創立 55 周年記念公演として

「人のあかし」

再演は川崎と横浜で

京浜協同劇団 城谷 護

「人のあかし」の再演が決定しました。一昨年 11 月から 12 月にかけて川崎のスペース京浜で上演した、和田庸子作、藤井康雄演出の「人のあかし」には多くの感想が寄せられました。

- 小学校 3 年の子どもと観にきました。今、中国、韓国が日本に対して何故怒りを表しているのか、私もこの劇でわかりました。(30 代、女性)
- 重いテーマを、柔らかい山形弁で演じておられ、とてもよかったです。涙なしには見られなかった。「失関」に揺れるこの時期によくこの問題をとり上げてくださいました。(77 歳、女性)
- 渡部さん他役者の方の演技が迫真で、軍国の兵隊から「鬼」に変化していく過程が本当によくわかりました。(30 代、男性)
- この事実を子どもたちに伝えたい。(60 代、男性)
- 人間への信頼あふれる中国の判決には涙が止まりませんでした。東アジアの平和をお互いの信頼で構築したいと思います。(横浜市、男性)

この作品は、土屋芳雄さんという憲兵が、中国の戦場で「鬼」となって多くの中国人を殺害したことを謝罪し、懺悔の証言活動をする物語です。中国の撫順戦犯管理所での 6 年間で自らの罪を反省し、帰国してから 5 千枚もの手記を書き続け、私たちに加害責任、

戦争責任を改めて問いかけたのです。

劇団はこの 3 年間、「皇國ノ訓導タチ」、「臨界幻想」、そして今回の「人のあかし」と 3 つの作品を上演してきましたが、いずれも日本の戦争責任を問う、ドラマです。

日本政府は今、特定秘密保護法、国家安全保障会議の発足、武器輸出、靖国神社参拝など戦争への道をひた走っています。

こうした中で、劇団は今年 55 周年を迎えますが、その記念公演第 1 弾として私たちは「人のあかし」をすることにしました。

作者の和田庸子は今回の再演にあたり、山形に再度足を運び、土屋さんがどんな思いで人生を送ったかを探ってきました。今改稿中ですが、初演よりも深くなるでしょう。

今回は川崎の他、横浜公演も行います。応援、よろしくお願ひします。



前回公演から (写真: ©長坂クニヒロ)

京浜協同劇団 第 86 回公演

人のあかし

～ある憲兵の記録から～

作 和田庸子 演出 藤井康雄

日程・会場 (予約制: 川崎 110 席・横浜 200 席)

2014 年 4 月 11 (金) ~ 4 月 13 日 (日) スペース京浜

4 月 25 (金) ~ 4 月 27 日 (日) 神奈川芸術劇場 (KAAT)

料金 一般 2,900 円 70 歳以上 2,200 円 学生 1,500 円 (当日各 500 円増)

全席自由席 開場は各 30 分前

[協力] 撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部・文化の仲間 [後援] 全日本リアルリズム演劇会議

[お申込み・お問合せ] 京浜協同劇団 TEL. 044-511-4951 FAX. 044-533-6694

HP: <http://www.keihinkyoudougekidan.com>

会場	スペース京浜			神奈川芸術劇場		
4 月	11 日	12 日	13 日	25 日	26 日	27 日
2:00 開演	○	○	○	△	○	○
7:00 開演	○	△	△	○	○	△

◎文化の仲間通信◎

◆講座 川崎の文化運動・演劇

かわさき市民アカデミー講座で京浜協同劇団の城谷護さんが講師を務めます。

日程 2014年1月18日(土) 10:30～正午

会場 スペース京浜

テーマ「働く人たちと文化運動—川崎の生んだ演劇運動を探る—」

事前申込制

問合せ・申込み 044-733-5590

◆川崎市民劇場第318回例会

文学座公演 くにご

日程・会場

たま・あさお市民劇場 2014年2月20日(木)

18:30 多摩市民館

さいわい市民劇場 22日(土) 16:00 幸市民館

なかはら市民劇場 24日(月) 18:30

25日(火) 13:30 エポック中原

作 中島淳彦/演出 鶴山仁/出演 栗田桃子・角野卓造・山本郁子・塩田朋子 ほか

向田邦子の半生をモチーフにした、戦争を挟んだ昭和の「家族」の物語。

申込み・問合せ たま・あさお市民劇場 044-911-6920

なかはら市民劇場 044-455-7950

さいわい市民劇場 044-244-7481

◆浅草・東洋館寄席に出演

しろたにまもるが「腹話術」で出演。ほかに14人の多彩な芸人が出演。

日程 2月26日(水) 12:00～16:30

会場 浅草・東洋館

木戸銭 2,500円のところ、優待券1,000円。

問合せ・申込み しろたにまもる 044-544-3737

◆楽しい腹話術のつどい

「腹話術の会★きずな」第8回発表会

日程 3月9日(日)

午前の部 10:30～12:30 子ども向け

午後の部 13:30～16:30 大人向け

会場 川崎市総合自治会館ホール(武蔵小杉徒歩5分)

入場料 無料(予約制)

問合せ・申込み しろたにまもる 044-544-3737

◆2014 児童青少年演劇祭典 田楽座公演

うひゃりこ どんどん むか～しむかし

日程 3月16日(日) 17:30 開演

会場 江戸東京博物館

主催 実行委員会・東京都・東京都歴史文化財団

入場料 2000円(3歳以上)(当日300円増)

演目 昔々の玉すだれ・鳥さし舞・大黒舞・獅子舞・

花笠音頭・濱のお囃子・おはやし話～こぶとりじい

さんより～ ほか

問合せ・申込み 田楽座 0265-78-3423

◆川崎市民劇場 第319回例会

俳優座劇場プロデュース公演 音楽劇 わが町

日程・会場

なかはら市民劇場 4月14日(月) 18:00

15日(火) 13:30 エポック中原

たま・あさお市民劇場 16日(水) 18:30 多摩市民館

さいわい市民劇場 26日(土) 16:30 幸市民館

作 ソートン・ワイルダー/演出 西川信廣/音楽

上田享/出演 土居裕子・原康義・栗野史浩・川

井康弘 ほか

1938年に初演されたソートン・ワイルダーの名作を音楽劇にして上演され好評を博した。隣同士の二つの家族の愛情深い交流を描く。

●うたごえ運動65周年記念

うたごえは生きる力 DVD5枚組/CD5枚組/資料集

定価 15,000円(税込)

DVD disc1 映像と音楽でつなぐうたごえ祭典I(ぞ

うれっしゃがやってきた・うたごえは生きる力)/

disc2 映像と音楽でつなぐうたごえ祭典II(うた

ごえは平和の力・うたは闘いとともに)/disc3

映像と音楽でつなぐうたごえ祭典III(合唱の魅

力・チェロ・アコーディオン・郷土・国際交流)/

disc4 うたごえ運動65年のあゆみ/disc5 うた

ごえ祭典の記録

CD disc1 ぼくのつくる道/disc2 ねがい/disc3

帰らぬ兵士の夢・平和のための世界のうた～ヨー

ロッパ編/disc4・disc5 歌劇「沖縄」第一次公演

うたごえ運動が生まれて65年。うたと平和を愛す

る人々がつくりあげてきた歴史を記録し、その精神を

後世に引き継いでいく、永久保存版の映像・音・資料集。

問合せ・申込み 神奈川音楽センター 045-212-1078

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃②

